

風紋

vol.63 2019 / Autumn

鳥取大学広報誌 FU-MON

鳥取大学は、今年で創立70周年を迎えます！

70



記念酒造り
プロジェクト！

祝！創立70周年

特集

鳥取大学のこれまでとこれから

社会
貢献

書を携えて町に出よう。
医療現場は、町の中にあるのだから。

話題の
研究室

地域学部地域学科国際地域文化コース
東アジア歴史文化

トリカツ！

大学時代にしかできない冒険に挑む！

教養の場

世界のスポーツ・健康文化論
「世界の広さと多様性を知る事と感ずる事、そして考える事の大切さ」

新任教員
紹介

工学部機械物理系学科・農学部共同獣医学科



2019 現在の鳥取キャンパス正門。木々が大きく成長。コンクリートタイル敷きで歩きやすい。

1966 今から53年前、竣工したばかりの鳥取キャンパス。緑がまだ少なく、閑散としている。

特集 **祝！ 創立70周年**

鳥取大学の これまでとこれから

鳥取大学創立から70年。過去の周年史を開くと、時代時代のキャンパスが鮮やかによみがえります。今回の特集は、前半に本学のあゆみと予定されている記念事業を、後半は農学部学生と教職員が1年半かけて取り組んだ「記念酒造りプロジェクト」をご紹介します！

鳥取大学の沿革

年月	事項
1949(昭和24)年 5月	米子医科大学・米子医学専門学校・鳥取農林専門学校・鳥取師範学校及び鳥取青年師範学校を包括して鳥取大学(学芸学部、医学部、農学部)を設置
1958(昭和33)年 4月	医学研究科(博士課程)を設置 農学部附属砂丘利用研究施設を設置(平成2年組織転換)
1965(昭和40)年 4月	工学部を設置
1966(昭和41)年 4月	学芸学部を教育学部に改称
8月	鳥取キャンパス統合移転(事務局、学生部、教育学部、工学部、附属図書館が、鳥取市立川町5丁目から、農学部が鳥取市吉方から、鳥取市湖山町(現在地)に移転)
1967(昭和42)年 4月	農学研究科(修士課程)を設置 教養部を設置(平成7年廃止)
1974(昭和49)年 4月	工学研究科(修士課程)を設置
1975(昭和50)年 4月	医療技術短期大学部を併設(平成14年廃止)
1985(昭和60)年 12月	鳥取大学紋章の決定
1989(平成元)年 4月	連合農学研究科(博士課程)を設置
1990(平成2)年 6月	乾燥地研究センター(全国共同利用施設)を設置
1994(平成6)年 4月	教育学研究科(修士課程)を設置 医学研究科(博士課程)を 医学系研究科に名称変更、修士課程を増設 工学研究科(修士課程)を 博士課程(前期課程・後期課程)に改組
1995(平成7)年 7月	JR山陰線 鳥取大学前駅が開業
1997(平成9)年 7月	乾燥地研究センターにアリドドーム竣工
1999(平成11)年 4月	教育学部を改組・転換し、 教育地域科学部を設置
2000(平成12)年 10月	広報誌「風紋」創刊
2004(平成16)年 4月	国立大学法人鳥取大学設立 (国立大学法人法の施行) 教育地域科学部を改組・転換し、地域学部を設置
2007(平成19)年 4月	地域学研究科を設置(教育学研究科を改組)
2008(平成20)年 6月	シンボルマーク・イメージキャラクター「とりん」制定
2017(平成29)年 4月	持続性社会創生科学研究科を設置 (地域学研究科[修士課程]、工学研究科[博士前期課程]、 農学研究科[修士課程]を改組・転換)
2019(平成31)年 4月	鳥取大学・岐阜大学共同獣医学研究科(博士課程)を設置

▼広報誌「風紋」



シンボルマーク
イメージキャラクター「とりん」

▼美しいキャンパス12景の写真が話題を呼んだ創立70周年記念カレンダー。
※非売品。現在在庫はありません。



写真を募集。在学生、卒業生、地域の方などから応募された作品を投票で12枚に絞り、入選写真で2019年度の卓上カレンダーを制作した。新入生全員に配布したところ大好評で、保護者からも問合せがあったほどだという。

「山陰」「鳥取」といえば、へんぴな地方都市と思われがちだ。しかし一度その良さを実感すると、学びやすく暮らしやすく、学生たちは本学ならではの「地」と「知」の利を生かして豊かな感性を持った人間へと成長している。変化スピードが早い現代社会ではあるが、変化を恐れず、時には根底に存在する普遍的な「鳥大らしさ」を確かめながら新しい時代を歩みたい。

地域を大切にしながら 発展し続けてきた鳥大の70年

「令和」という新しい時代になった今年、本学も記念すべき節目の年を迎えた。昭和24(1949)年5月、5つの高等教育機関が統合された「鳥取大学」が誕生してから70年がたったのである。国が国立学校設置法を施行したことから国立大学として設置された本学は、それから長い時間をかけて、鳥取県の最高学府としての歴史を刻んできた。

当時から医学部は米子キャンパスにあり、ほかの学部は鳥取市内の各所に点在していた。それが現在の鳥取キャンパス(湖山町)統合移転されたのは、昭和41(1966)年のこと。写真(2ページ・右上)を見ると、植樹されたばかりの木々がまだ小さく、遠くの校舎も一望できるのが印象的だ。この時代に鳥取キャンパスで学校生活を送った卒業生らは、校舎と同じぐらいの高さに成長した現在のケヤキやクロマツに驚くという。

本学は開学当初から地域や地元企業との関係が密接であり、産官学が共同して、地域の抱えるさまざまな課題について研究を行ってきた。それは今も継続されており、特に県の特産品である梨栽培や品種改良、菌類きのこの研究は、県内の産業を支えてきたといえる。

また、農学部の前身である旧制高等農林学校時代から続く砂丘地開発研究は、今や乾燥地研究として世界をリードするほどに発展している。平成16(2004)年4月には、教育地域科学部が改組され「地域学部」が設置された。全国の大学に先駆けた動きであり、鳥取という地方都市ならではの特色を生かした学びが展開されている。これらの教育・研究は全国の高校生から、「鳥取大学で学びたい」と熱い視線を送られる理由になっていることは間違いない。

歴史を振り返ることで、新時代を歩む勇氣に変える

創立70周年記念事業として、11月21日に鳥取市内のホテルにて記念式典を開催する。式典後は、元文化庁長官の林田英樹氏をお招きし記念講演を行う予定で、その後祝賀会へと移る。

そのほか、記念事業としてさまざまな取り組みを展開している。50周年に発刊した「鳥取大学五十年史」を基に、そこから20年のあゆみを加えた「七十年史」を今年度末に発刊する予定だ。

また、学生による企画も催された。学生広報スタッフは昨年1年をかけて「鳥取大学70周年記念フォトコンテスト」を実施し、四季折々のキャンパス内の

▼1969年3月、本学で起こった大学紛争により荒廃した本部建物裏。まだ新しいはずの建物の意は半分ほどが割れている。本部の封鎖は50日余りに及んだという。



記念酒造りプロジェクト

ゼーンぶ「メイドイン鳥大」の取り組みです！

1

酒米の苗を育成

「強力」という酒米の種もみを育苗箱にまき、苗になるまで育成します。生育に差が出ないように、土の盛り具合を均等にすることが難しかった！



ごうりき

鳥大が守り続けた幻の酒米「強力」

鳥取県原産で、大正時代は奨励品種であった「強力」は、稲の背丈が140cmを超え、大粒で育成が難しいことから戦後まもなく栽培が途絶えました。しかし、その種もみを我が鳥大農学部だけが保管していたことから復活！現在、鳥取県内にしか流通していない、地域を代表するブランド酒米なのです。



2

田植え

無事に生育した苗を田んぼに植え付けます。三菱マヒンドラ農機(株)さんのご協力により、私たち学生は機械による田植えを体験することができました。



完全無農薬・
無化学肥料で栽培！

オール鳥大
POINT

「再生紙マルチ」による田植え&栽培

「再生紙マルチ」は、土の上に再生紙を敷きながら田植えをすることで日光を遮断し、雑草の成長を抑制する農法。鳥大が開発した技術で、現在全国各地に普及しています。再生紙はセルロースだから50日ほどで分解、ビニールマルチのように後で回収する必要がありません。また、専用の再生紙は地元企業の三洋製紙(株)さんで製造されているんですよ。



3

田んぼの管理

再生紙マルチが浮かないように、そして稲が丈夫になるよう浅水が基本。台風襲来や悪天候にも見舞われてハラハラしたけど、おかげで稲はほとんど倒れませんでした。



6

オール鳥大の記念酒、ついに完成！

1本ずつ丁寧に瓶詰めされ、ラベルも手作業で貼り付けられるそうです。720ml入り、限定1,000本ができあがりました。鳥大の知恵と勇気と希望が詰まった日本酒です。



5

酒造りを体験

70周年にふさわしい日本酒に仕上げるため、(有)山根酒造場さんはあえて、酵母を培養する作業において伝統的な製法「生酏(きもと)造り」を選択。桶に入れたお米を櫂ですりつぶす「山卸」という作業を体験させてくれました。これがなかなかの重労働！でも酒造りの苦労や杜氏さんの思いを知り、完成が余計に楽しみになりました。



2人で息を合わせ、
ひたすらすりつぶし

4

稲刈り・乾燥・精米

田植え同様、三菱マヒンドラ農機(株)さんにお世話になりコンバインで刈り取り。授業では手作業でしたが、コンバインはパワフルで効率的。機械化の重要性を実感できました。約900kgを収穫、もみはすぐに乾燥機へ。もみ殻を取って玄米に仕上げた後は、地元の酒蔵・(有)山根酒造場さんへバトンタッチ、いよいよ酒造りです。



機械が入れない所は
鎌で刈り取りました



鳥大が絶滅を救った幻の酒米で
唯一無二の記念酒を造ろう！

やまくち たけし
山口 武視 副学長

農学部附属
フィールドサイエンスセンター教授



を温めてきたのだ。
プロジェクト実行に当たり、こだわったのは3つのポイント。第1は、幻の酒米・強力を育てること。第2に、記念酒造りに学生が関わること。「大学にとって学生は宝。彼らが一生懸命作ったものを多くの皆さんに還元したい」と考えたからだ。そして第3に、稲作が専門の副学長自身が手がけている、再生紙マルチによる無農薬・無化学肥料で酒米を栽培することだ。
昨年春に田植え。再生紙マルチにより雑草が抑制され、強力栽培は好スタートを切った。ところが夏には、台風襲来や悪天候にも見舞われた。倒れやすい強力を心配して皆が一喜一憂。山口副学長も、嵐のたびにドキドキしながら田んぼを見守っていたという。幸いにも、無化学肥料・浅水で栽培していたため強力が丈夫に成長しており、被害は最小限で済んだ。

▼ 田んぼに肥料としてチッ素を入れると稲は大きく育つが茎が弱く、倒れやすくなる。浅水・無肥料にしたことでケイ素が増えて茎が強くなり、数度の台風に耐えることができた。





鳥大の学生サポート

学生生活&就職活動をガッチリ応援!

高校までとは違う学修・生活環境、将来や就職活動に対する不安。そんな悩みを抱えていたら、この2つのセンターがひと肌脱ぎます! 何か困り事があったらまずはこちらへ足を運んでみてください。



学生支援センター

より良いキャンパスライフのために
悩みに寄り添って多面的にフォロー

学生支援センターは、いわば「学生のよろず相談所」です。充実した授業・学生生活を送ることができるよう、さまざまなサポートを行っています(右図)。また、身体障がい、発達障がい、精神障がい、身体疾患など、障がい学生等に対する総合的支援やコーディネートを行うことも重要な役割の一つです。

支援を希望する場合は「支援申請書」をご提出ください。各学部・その他関連機関と連携し、座席位置の配慮、配布資料の拡大やPDF化、録音や板書撮影の許可などの修学支援を行います。申請書はセンターや各学部教務係に置いているほか、年1回保護者の方へ郵送しています。学生には平等に授業を受講する権利があります。私たちは皆さんの“学ぶ意欲”を応援します。

- 鳥取キャンパス 共通教育A棟2階(平日のみ 8:30~17:15)
- 米子キャンパス 学務課学生係(平日のみ 8:30~17:00)

- サークル活動のこと
- 奨学金のこと
- 授業料免除のこと

『なんでも相談』

どんな悩みでも遠慮なくご相談ください。
専門の相談員が対応いたします。

- アルバイトのこと
- 学習・単位のこと
- 就職・進学のこと

▼詳しくはWEBサイトをご覧ください

<http://www.st-support.adm.tottori-u.ac.jp/index.html>

スマートフォンの
方はこちら!



キャリアセンター

「就職活動って何をすればいいの?」
気になったら1年生からでも相談OK!

昨今の就職状況は売り手市場(学生有利)といわれていますが、令和3(2021)年度卒業の学生から従来の就活スケジュールが廃止され、通年採用への移行が予定されており、就活の早期化(場合によっては長期化)が進むと思われます。また、職業観養成等の観点からインターンシップの重要性も増しています。

キャリアセンターでは、社会人として自立することのできる能力を養うキャリア教育を担うとともに、自己分析や仕事選びのアドバイス、インターンシップ、履歴書の書き方、面接練習等、就職活動に関する各種相談を受け付けています。相談時間は1回40分、経験豊富な相談員が丁寧に指導します。どうぞ遠慮なくキャリアセンターをご活用ください。(米子キャンパスでの対応の詳細は、学務課学生係でご確認ください)

- 鳥取キャンパス 共通教育棟B棟1階(平日のみ 11:00~17:00)
- 米子キャンパス 学務課学生係(平日のみ 10:15~17:00)

こんなときは相談してください

- 履歴書の書き方や添削
- 就活へ向けた面接練習
- 仕事選びのアドバイス



▲「山卸」は時間をかけて3回行われる、一日がかりの大仕事。米をすりつぶすことで蔵の乳酸菌が入り込み、味に奥行きが出るという。

味わってみたい!

数に限りがあるのでお早め!

こきあたら
記念酒「鳥大古希新」

販売場所 鳥取大学生協ショップ (店頭販売のみ)

価格 3,300円(税込)

販売価格には70周年記念事業への寄付金が含まれます。

- 内容量: 720ml
- アルコール度数: 15度
- 精米歩合: 70%
- 原料米: 強力(鳥大産)

【お問い合わせ】
TEL.0857-28-2333 (鳥取大学生協ショップ)

時代を拓く大学であるように
新しい門出を祝う特別な一本

例年以上の猛暑続きやスズメ被害等そのほか幾つもの試練に襲われたが、いずれもなんとか乗り越え、迎えた収穫の秋。目標の1トンには届かなかったものの、約900kgの酒米を収穫することができたのは大きな喜びだった。

酒米は早速(有)山根酒造場に届けられ、いよいよ酒造り。代表取締役社長の山根正紀さんは、「学生たちが一生懸命育てた酒米。酒造りでも人間臭いことをしたら、もっと面白いものができるはず」と酒蔵に学生たちを招き、昔ながらの酒母の製法「生酛(きもと)造り」の作業を体験させてくれた。自分たちが育てた酒米が蔵元でどうなっていくのか

を見る機会はそうそうない。これは、「若い人たちに日本酒のことを知ってもらいたい、飲んでもらいたい」という山根さんの粋な計らいだ。

さて、あとは出荷を待つばかりの記念酒は、中島廣光学長によって素晴らしい名前が付けられた。その名も「鳥大古希新(こきあたら)」。本学の70周年(古希)を祝うだけでなく、これから100年に向かって新たな一歩を踏み出そうという願いが込められているそう。

11月21日に催される記念式典でのお披露目が予定されており、その味と香りが実に楽しみだ。「オール鳥大」で出来上がった記念酒はきつと、関わりのあるすべての人にこれまで感じたことのないような特別な味わいを届けてくれることだろう。

記念酒作成プロジェクトに参加して

母校の創立を祝う記念酒造りに携われたことは
二度とない貴重な経験であり、僕たちの誇りです。



僕はこの記念酒造りプロジェクトに、後輩たちのティーチング・アシスタントという形で参加しました。作業は主に、3年生(現4年生)が担当。授業で米づくりの実習を経験しているので、みんな基本的な流れは理解していましたが、今回大きく違ったのは「強力」という酒米であることと、田植えと稲刈りを機械で行ったことです。

「強力」は、一時作る人がいなくなってしまうほど栽培が難しい酒米。稲の背丈が高いため、みんなも刈り取りやその他の作業に苦労していましたが、授業で学んだことを生かしたり、作業をライン化して効率を上げたり、工夫して頑張っていた姿が印象に残っています。「さすが農学部の学生」と感じました。

こばやし しゅんすけ
小林 俊介 さん

大学院持続性社会創生科学研究科 農学専攻 2年

また、再生紙マルチ専用田植機の使用や汎用コンバインでの稲刈りは、記念酒造りだからこそできた貴重な経験でした。農業における機械化の重要性を実感できたのではないのでしょうか。

県内の各酒蔵が出している「強力」はどれもスッキリした辛口のお酒ですが、記念酒はどんな味に仕上がるのか、自分も関わっただけにとっても楽しみ。早く飲んでみたいし、帰省の際には家族にもプレゼントしたいですね。

僕は自身の研究でも「強力」を栽培していることから、酒米づくりにはかなり興味を抱いています。これを仕事にできるかどうかは分かりませんが、いつか酒米や日本酒造りに関わることができたらいいなと思っています。





社会 貢献

たにくち しんいち
谷口 晋一 教授
医学部医学科地域医療学講座

略歴
1985年 鳥取大学医学部卒業
1987年 同大医学部第一内科(現在の病態情報内科学)内分專攻
94~96年 米国国立衛生研究所(NIH)留学
2003年 鳥取大学医学部病態情報内科学 講師
2010年 現職

専門 地域医療学/家庭医療学
内分代謝学/内科学

趣味 読書/映画鑑賞



書を携えて町に出よう。 医療現場は、町の中にあるのだから。

「地域医療」って、どんな医療なのか？私たちはそれを「コミュニティ基盤型家庭医療学」と呼び、地域に暮らす人々との関わりの中で学ぶ医学と考えています。

プライマリ・ケアの重要性

鳥取大学医学部に「地域医療学講座」が開設されて9年がたちました。本講座の開設背景を振り返りますと、やはり地方と都市部の間で医師の偏在が大きくなったことがあります。各地方大学では、地域で活動する医師の養成を支援するため医学部に「地域枠」を設けて学生を受け入れるようになりました。本学も毎年、約20名の学生を募り、地域医療を中心に活動する人材養成に取り組んでいます。

しかし、そもそも「地域医療」とは何か、そのための教育はどのように組み

立てればよいのかという疑問は、講座の開設当初からありました。

大学(病院)外の、地域に密着して活動する他の医療機関などと連携した教育プログラムを実行していますが、とくに私が注目しているのは「プライマリ・ケア」(注1)の重要性です。プライマリ・ケアは、今では「総合診療」に代表されますが、これは超高齢化社会を迎えている現在では地方・都市にかかわらず、大きな課題となっています。

例えば、高齢者は複数の疾患を抱えているケースが多く、医療のほかに介護や生活支援サービスなど地域社会での包括的なケアが必要になります。そこでは

大学外でも学びの機会をつくる

本学医学部附属病院には、たくさんの診療科があります。大学病院では、医学部の学生は基礎的な医学教育とともに各専門科に応じた臨床研修や実習もできます。ただ、大学病院は特定機能病院(3次医療機関・注2)であるため、プライマリ・ケアの視点から考えると、

医療システムの中の一部の教育や経験しかできません。それは施設特性から考えて致し方ないことです。高齢化をはじめとした現実的な社会ニーズを踏まえて必要になってきたのが「地域医療学」教育だと思います。本学医学部では6年間を通じて、地域医療に関する基礎的学習から実習まで、段階的に学べるように工夫しています(図1)。

医学教育において専門医療の追究は

必ず必要です。ただ、地域医療を学ぶ上で、その舞台として大学とその附属病院だけでは限界があります。地域にある2次医療機関、中小の病院、クリニック、さらには地域包括ケアなど、地域医療を構成するさまざまなすそ野において、その現場に直に接して学生が学習する機会をつくる必要があります。そこで本講座では平成26(2014)年、鳥取県西部の日野町にある日野病院の協力を得て「鳥取大学地域医療総合教育研修センター」(日野病院内)を開設しました。開設当初、学生の研修は総合診療の外来だけでしたが、その後、病棟実習や健康講座など幅広く学べる態勢を整えています。また、平成31(2019)年4月には大山町(だいせんちょう)の大山診療所に「鳥取大学家庭医療教育ステーション」を開設しました。これらのサテライト教育施設を中心に、地域医療教育を行っています。

医療現場の緊張感と責任感を体感する

大学病院外での実習(5~6年次)はごく短期の限られたものですが、それでも学生は、地域社会の医療活動が実際にどのように動いているのかを見て多くのことを考えることとなります。指導医は付き添いますが、学生が患者さんに一人向き合う場面もあります。医学学生は卒業後、2年間の初期研修を受けることとなります。その前段としてこうした実地経験は、貴重なものとなっていくに違いありません。

実習を終えた学生からは、「難しかった」とか「勉強してきた知識を生かせなかった」などの声を聞きます。6年生は、一人の患者さんの入院から退院までのケースをすべて体験することもあります(写真1)。医療現場ごとに緊張感があり、患者さんに対する責任の重さを実感することになります。その感じ方は、大学病院とは少し違うものがあると思います。

鳥取大学の地域医療教育の到達目標：

1. 地域住民の健康状態には、家族、地域社会、文化などの社会環境が関与していることを理解できる。
2. 地域医療に必要なプライマリケアの考え方や技能を習得し、基礎的事項を実践できる。
3. 地域や地域で暮らす人を尊重し、コミュニティと連携して地域医療の向上に貢献できる。

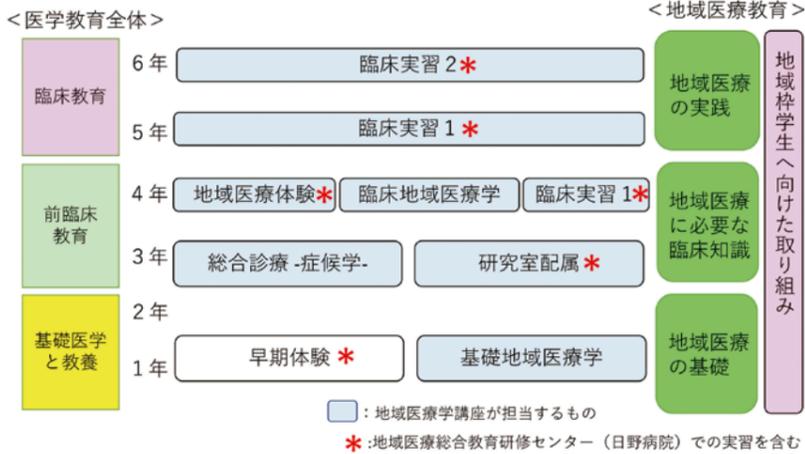


図1 鳥取大学医学部の地域医療教育の流れ

院の協力を得て「鳥取大学地域医療総合教育研修センター」(日野病院内)を開設しました。開設当初、学生の研修は総合診療の外来だけでしたが、その後、病棟実習や健康講座など幅広く学べる態勢を整えています。また、平成31(2019)年4月には大山町(だいせんちょう)の大山診療所に「鳥取大学家庭医療教育ステーション」を開設しました。これらのサテライト教育施設を中心に、地域医療教育を行っています。

他にも、地域医療実習の鳥取県内での協力機関は約50施設あります。

大学病院外での実習(5~6年次)はごく短期の限られたものですが、それでも学生は、地域社会の医療活動が実際にどのように動いているのかを見て多くのことを考えることとなります。指導医は付き添いますが、学生が患者さんに一人向き合う場面もあります。医学学生は卒業後、2年間の初期研修を受けることとなります。その前段としてこうした実地経験は、貴重なものとなっていくに違いありません。

実習を終えた学生からは、「難しかった」とか「勉強してきた知識を生かせなかった」などの声を聞きます。6年生は、一人の患者さんの入院から退院までのケースをすべて体験することもあります(写真1)。医療現場ごとに緊張感があり、患者さんに対する責任の重さを実感することになります。その感じ方は、大学病院とは少し違うものがあると思います。

そして、学生たちは実習で経験したことを指導医と振り返り、指導医からのフィードバックを受けます。患者さんの置かれている生活背景、家族、地域



写真1 クリニカルクラークシップ1・II(平成30-31年度)

環境も含めて考えてもらいます。患者のために何をどうすればいいのかわからない、課題を探究することが、とても大きな意義をもっています。

平成30年度より「総合診療専門医」が新たな専門領域に加わり、総合診療医が社会に息づき始めました。その発展は、大学と地域社会(コミュニティ)との地道なつながりの中で培われていくものと期待しています。

(注1)プライマリ・ケア

「患者の抱える問題の大部分に対処でき、かつ継続的なパートナーシップを築き、家族及び地域という枠組みの中で責任を持って診療する臨床医によって提供される、総合性と受診のしやすさを特徴とするヘルスケアサービス(米国国立科学アカデミーによる定義)。地域にある医療や介護、保健、生活支援サービスを含んだ包括的な診療ケアのこと。かかりつけの医療。総合診療。

(注2)3次医療機関
専門性の高い救急医療など特殊な医療を提供する医療機関。



地域学部地域学科国際地域文化コース

東アジア歴史文化

担当教員 柳 静我 准教授 Yu Jeungah (ユウ チョンア)

東アジアの歴史文化と多様な関係性を紐解く



ゼミの様子

＼直近5年以内の/ 卒業生の主な進路

- (一財) 日本中国文化交流協会、
- (株) 近畿日本ツーリスト九州、
- (株) ダイネン産業、ANA関西空港(株)、
- 鳥取環境大学、鳥取大学、神戸市役所 など

特徴的な文明や民俗文化、宗教、交易、動乱や同盟など、各国間で影響を及ぼし合ってきた東アジアの歴史文化は、時に映画やTV番組、舞台の題材として取り上げられることがあるほど壮大でドラマチックだ。この研究室では、その詳細を文献・資料で調べたり現地調査するなどして研究を進めている。テーマは、中国の媽祖信仰、江戸時代の朝鮮通信使、東アジアにおける辛亥革命の意義などさまざまだが、学生たちは単に過去を学ぶだけでなく、これから生きる知恵と力にしようと奮闘している。

研究室の雰囲気は朗らか。ゼミの前にはみんなでおやつを食べ、リラックスしてから臨むのだとか。気持ちを盛り上げた後、学びのほうへグッと引き込んでくれる柳静我准教授に学生たちは厚い信頼を置く。

そんな柳准教授、実は4カ国語を操るマルチリンガル。研究を進める上で言語の習得は不可欠なので、その能力を生かして毎週韓国語と中国語の勉強会を開き、語学力向上を後押し。こうした勉強会や現地調査、海外学生との交流をきっかけに、研究室では留学を志す者が多い。「多様な言語・文化を理解できることは必ず強みになる。机上の勉強だけでなく実際に現地を見て学び、広い視野を持つことが大事」と、東アジア各国を飛び回ってきた自身の知識と経験を惜しみなく伝えている。



— 柳先生が行う海外演習 —

東アジアプロジェクト

- 台湾プログラム
- 韓国プログラム
- 中国プログラム
- 東アジアプログラム

東アジアで語学力と現地感覚を持って活躍できる人材を育成するプロジェクト。地域学部生であれば誰でも参加OK。台湾・韓国・中国の各プログラムでは鳥大生が現地へ、東アジアプログラムでは逆に各国学生が来訪、相互交流を図る。

自分のボーダーが広がる学び

東アジア諸国は、昔からずっと濃密に関係し合ってきた歴史文化を築いてきました。ですから1つの国について学ぶとき、必ず周りを取り巻く国々が登場します。切り離して考えることは難しいのです。こうした理由から、東アジアの国々を訪れる「東アジアプロジェクト」を実施しています。現地へ出かけ、定められたテーマに従って調査を行ったり、その国の言語や歴史文化を学んだり、現地学生と交流するなどします。日程はそれぞれ5〜10日間、参加者は毎回15人前後。この研究室の学生は、全員がほぼすべてのプログラムに参加しています。

「開港」。台湾の淡水、中国の厦門など各国の開港地を訪れ、その歴史や発展の経緯、現在の様子などを調査し、現地の雰囲気を感じてきました。共通のテーマで調査することにより国ごとの違いや共通点を比較することができ、学びの深まりにつながっています。プログラムを通して多くの時間を共に過ごす鳥大生と各国学生は、とても仲良くなります。帰国後もSNS等を通じて友人関係が続いており、自然にグローバルな感覚が育っているようで、互いの言語や歴史文化を深く理解し合うことで次第に国境というラインを意識しなくなり、「東アジア」という広いエリアで物事を捉える感覚が確立されています。いくら



文化は国を越えてつながっている！

すべてのプログラムに参加して「どの国もどこかしらでつながっているんだ！」と実感し、国単位ではなく「東アジア」という広いエリアで物事を考えるようになりました。海外で積み重ねた経験を1・2年生の授業の中で発表したのですが、こんな機会が頂けるのもこの研究室ならではのですね。

こむら こうき
小村 幸基さん 地域文化学科4年



現地学生との交流がメチャ楽しい♪

2年生の12月に台湾、そして今年3月は中国プログラムに参加しました。現地学生との交流がすごく楽しかった！帰国後は語学勉強のやる気がアップしました。9月から半年間、韓国・釜慶(プギョン)大学へ留学する予定。現地調査や文献調べを積極的に行って、卒論に生かしたいと考えています。

はなふさりな
花房 璃奈さん 地域学科
国際地域文化コース3年



“多様性”を持った人間になりたい

東アジアプロジェクトで多様な文化・言語を学んだことをきっかけに、東南アジアにおける華僑・華人の広がり、国ごとの政策の違いなどに興味を抱きました。そのテーマで卒論に取り組むつもりです。各プログラムやマレーシア留学を通して海外に友達ができ、自分の活動の場も広がりました。

かきや ちさと
垣屋 知里さん 地域文化学科4年



CHECK THIS OUT!

鳥大生の活躍を紹介します

トリカツ!



大学時代にしかできない冒険に挑む!

本格的な探検から
身近な好奇心まで

探検―。それは未知の領域へ足を踏み入れ、何かを探り出すこと。鳥取大学体育会探検部は、山登りから洞窟探検、川下りといったアウトドアから、「これをやったらどうなるんだろう」という身近な好奇心を満たす挑戦まで、幅広い分野に冒険を挑み、自らの可能性を広げている。

「大学時代にしかできない経験がたくさんできる。特に川をゴムボートで下るラフティングは大学に入ってから始める人がほとんどで、自分の頑張り次第で上位を狙うことができる」と語るのは、副部長の志茂優樹さん(農学部3年)。

探検部に入ると、ほとんどの部員がラフティングの新人戦に出場し、その後、競技として大会出場を目指すメンバーがチームを組んで、全国大会での入賞や世界を目標に湖山池や四国の吉野川などで練習に励んでいる。

これまで男子チームは何度か全国大会で入賞を果たし、世界大会でメダルも獲得。今年5月には女子チーム「鳳雛」が世界大会に出場し、2部門で3位入賞に輝いた。鳳雛のキャプテン、溝手咲子さん(工学部3年)は「流れにきれいにボートを乗せて難所を下り、設置されたゲートを全通できた時の達成感は大きい」と目を輝かせる。

楽しく過酷な活動が
生きる力を育む

もちろんストイックに競技の成果を求めるだけが探検部ではない。「『やってみよう』と声を上げたら『いいね!』と賛同してくれる仲間がいるのがうれしい」と倉田亮直さん(農学部3年)。豚の丸焼きや窯から手作りするタンドリーチキン作りなど興味あることを実行に移し、活動の内容や反省を記録して次に生かしている。

洞窟探検ではウェットスーツとツナギを着込んで代々残る地図と先輩たちから教わった知識を基に本格的な洞窟探検に挑み、夏季休暇恒例の部員全員参加の合宿では兵庫県の家島諸島にある自然学校でキャンプを存分に楽しんだ。「でも、楽しいだけではない」と志茂さん。ほふく前進でしか入れないような狭い洞窟を進んだり、3日分の荷物を背負って山道を40分かけて登ったりと、かなりの過酷さを伴う活動も。「普通の大学生はうらやましいと思われないかもしれないけど、ぼくたちはかなり楽しい」と笑う倉田さん。

探検部で養われたサバイバル力と忍耐力、行動力は、彼らに「どこでも生きていける」とくまじさと経験値を与えている。

U23女子
日本代表
として

体育会探検部女子ラフティングチーム「鳳雛」 世界大会に出場!

2部門で3位入賞しました!

ラフティング世界選手権オーストラリア2019

今年5月にオーストラリアのタリー川で開かれた世界ラフティング選手権に、探検部女子チーム「鳳雛」がU23女子の日本代表として初出場し、スラロームとヘッドトゥヘッドの2部門で3位入賞に輝いた。世界ラフティング選手権は急流をボートで下ってタイムや得点を競う大会で、地元オーストラリアをはじめ、イギリス、インドネシアなど5カ国が参加。メンバーはキャプテンの溝手さんと別所泉さんの3年生2人と、加藤ひなのさん、奥出美知世さん、岸華代さん、田邊望美さんの2年生4人で編成し、世界選手権まで、真冬の千代川や早朝の湖山池、吉野川などで厳しい練習を重ねてきた。溝手さんは「世界的にレベルの高い川で、世界のチームといいレースができた」と充実した表情で語ってくれた。

世界の川好きな人たちとラフティングできて幸せでした!



表彰式にて満面の笑み!



地元の高校生が旗を揃ってくれました!

流れの穏やかな場所では習い力を合わせて!



他の国の選手とTシャツを交換して国際交流できました!

お世話になった日本代表監督で鳥大OGの番さんと!



転覆した時に助けてくれた海外の選手に感謝!



ヘッドトゥヘッド



イギリス戦で気迫のスタート!

私たち6人が世界へ挑戦!



スラローム
穴のゲートを目指して!

アラブ首長国連邦(UAE)の 駐日特命全権大使が本学を表敬訪問

2019.9.10



アラブ首長国連邦(UAE)のカリド・アルアメリ駐日特命全権大使らが、鳥取県訪問の一環として本学に來学し、中島学長を表敬訪問しました。中島学長は、昨年にUAEの国際塩生農業研究センターと本学が学術交流協定を締結したことを紹介し、アルアメリ大使の訪問を機に今後ますますUAEとの交流を深めていきたいと挨拶をしました。

表敬訪問後には、アルアメリ大使から本学学生及び教職員約60名を対象にご講演いただきました。講演では、UAEと日本との関係をはじめ、「多様性と寛容」を大事にする精神がUAE経済発展の原動力となったことなどの紹介があり、参加者らとUAEにおける教育等に関する質疑応答が交わされるなど、本学にとっても貴重な機会となりました。

工学部棟正面玄関に 「学内シェア傘」を設置

2019.9.25



工学部では、誰でも自由に利用できるシェア傘を工学部棟正面玄関に設置しており、利用者から感謝の言葉が寄せられています。

この企画は、学生がグループを構成し、課題を見つけ、解決・改善することを目的とした授業「土木・社会経営プロジェクト」の中で、そのうちの1グループの提案によって生まれたものです。

企画メンバーの工学部社会システム土木系学科3年の谷淵さんは、「鳥取は突然雨に降られることも多く、傘がなくてびしょ濡れになって歩いている学生をよく見かけるため、シェア傘の需要があると考えた。今回の調査で、シェア傘のニーズや返却率が高いことがわかったので、今後も活動を続け、シェア傘を大学全体に広げたい」と意欲を語りました。

韓国の大学生と海岸清掃活動を実施

2019.6.28-7.6



本学と学術交流協定を締結している韓国・南ソウル大学校との交流事業「第14回海洋環境問題を考える日韓学生実践プログラム」を実施し、南ソウル大学校から8名、群山大学校から6名の計14名が参加しました。

今回は、鳥取砂丘海岸、琴浦町赤碕海岸、米子市弓ヶ浜海岸に加え、京都府宮津市や福井県小浜市の海岸を含めた約300kmにわたる地域において、海岸清掃や環境セミナーなどの活動を実施し、賀露海岸では、本学学生と共にマイクロプラスチックの回収調査や汚染状況の把握を行いました。また、鳥取砂丘近くの海岸では本学学生のほか、鳥取市、国際交流団体、ボランティアの方等と協働して海岸清掃を実施し、漂着ごみによる海岸汚染問題の解決策について話し合いました。



WHAT'S NEW?



大学の動き

在学生の活躍や大学の取り組みなど、
鳥取大学の最新情報をご紹介します。

医学部附属病院 「ロボット手術1000例記念特別講演会」 を開催

2019.9.28



当院では、2010年に全国に先駆けて手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入しました。診療科の垣根を越えた横断的診療体制で、全国でもトップクラスの実績を積み重ねています。6月に節目となる1000例に達したことを記念して「ロボット手術1000例記念特別講演会」を開催しました。

オープニングでは原田病院長の挨拶に続き、伊木米子市長から祝辞を頂きました。また、当院でロボット手術を受けた患者さんから、当院を振り返り、思いや今の様子をお話いただいたほか、日本ロボット外科学会の渡邊剛理事長をお招きし、難しいとされる心臓手術のロボット手術について、現状や将来展望を解説いただくなど、改めて当院のロボット手術の歩みと今後を共有する機会となりました。

地方創生政策体験学習の 成果発表会を開催

2019.9.27



学生が県内自治体の地方創生事業について学び、課題の解決や新たな事業の提案を行う「地方創生政策体験学習」の成果発表会が行われました。

学生たちは体験学習で、本学と連携協定を結んでいる5つの自治体を訪問し、自治体職員とのディスカッションや事業関係者へのヒアリング等により、課題に対する情報を収集しました。その後、体験学習で学んだ事業についてグループで分析・評価し、必要性・有効性・効率・公平性といった観点で「模擬事業仕分け」を実施。学生ならではの改善策や提案に、自治体職員からは「町の事業を自分たちと違う角度で見えてくれたことは町にとっても有益。この気付きを今後も色々な分野で役立ててほしい」と高い評価を得ていました。

学生、教職員が 鳥取砂丘除草ボランティアに参加

2019.8.28



中島学長をはじめ、学生および教職員が鳥取砂丘除草ボランティアに参加しました。鳥取砂丘では1970年頃から外来種の雑草が繁茂し、砂の移動が減少することにより、独特の風紋や砂簾が見られにくくなったり、砂丘本来の美しい景観を損ねたりするなど、砂丘の草原化が深刻な問題となっています。

鳥取砂丘の自然景観を後世に伝えることを目的として、鳥取砂丘景観保全協議会が平成16年度からボランティア除草活動を行っており、本学もこの事業の趣旨に賛同し、雑草が発芽・成長する夏の後半の時期に毎年度多数の学生及び教職員が参加しています。今回は悪天候の中での作業となりましたが、約250名が参加し、午後5時30分から約1時間、一本一本丁寧に除草しました。

「国公立大学進学のおすすめ2019」に掲載

2019.7.12



本学の特集記事が、朝日新聞朝刊「国公立大学進学のおすすめ2019」に掲載されました。「世界に貢献する乾燥地研究の拠点」と題して、砂漠化や食糧危機など世界的な乾燥地問題に組織的に取り組む乾燥地研究センター、地域の課題解決から始まり世界を舞台にした研究を行っている本学の強み、乾燥地研究センターの歴史などを紹介しております。また、メキシコやウガンダに海外留学した本学の学生2名による留学体験や、インタビューを通して語られた学長からのメッセージといった、学長、教員、学生の視点から伝えられる、本学の魅力が詰まった誌面となっております。朝日新聞デジタルの特集ページにも掲載されておりますので、ぜひご覧ください。

大学からのお知らせ

INFORMATION



鳥取大学創立70周年 記念事業募金

鳥取大学は昭和24年(1949年)に開学され、令和元年(2019年)で創立70周年を迎えます。創立70周年にあたり、記念事業として、記念式典、記念講演会等の開催を予定しております。皆様方におかれましては、記念事業にご賛同いただき、ご支援いただきますようお願いいたします。

なお、ご寄附は「鳥取大学みらい基金」にて、記念誌の発行、記念式典、記念講演、記念酒醸造、記念植樹等に運用いたします。

ご協力をお願いする寄附金

ご寄附いただいた方へ

ご寄附：1口 1,000円

※1口1,000円から、何口でも結構です。

ホームページ(芳名録)への掲載

両キャンパスに銘板を掲示
(個人10万円以上、法人等20万円以上)

広報誌「風紋」の贈呈
(送付期間：寄附をいただいてから1年間)

70周年記念誌の贈呈
(2万円以上ご寄附いただいた希望者)

詳しくは
お問い合わせ

国立大学法人 鳥取大学 総務企画部 総務企画課

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 E-mail kikin@ml.adm.tottori-u.ac.jp

Tel 0857-31-5006

鳥取大学の基金



また、大学といえば、大きな目玉は研究です。第62号でご紹介したような「鳥取大学の特色ある研究」について、今後、より深く解りやすく情報発信していきたいと思っております。

なお、次号の第64号では「就活」を取り上げます。本学の学生さんの就活の現状をお伝えできれば、と思っております。ご期待ください。(T・A)

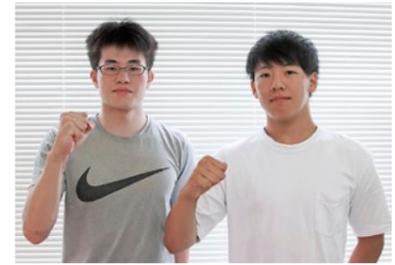
本号の特集では、鳥取大学70周年事業について掲載させていただきました。記念酒造りプロジェクトとして製造されました「オール鳥大」製の日本酒は、農学部で保存した種子を農場で栽培し、醸造されたお酒です。本学生協にて販売いたしますので、ぜひご賞味いただけると幸いです。

広報誌編集専門委員会では各委員が知恵を出し合っており、皆様に喜んでいただける記事を作成しようと鋭意努力しているところですが、毎回ご回答いただいているアンケート結果から、本誌「風紋」が、保護者の皆様や地域の皆様へ、本学の現状をお知らせする重要なツールになりつつあると感じております。今後も読者の皆様へ、期待感や安心感をお届けできる様な工夫をしていきたいと思っております。

編集後記

EDITOR'S NOTE

Circle Activities



部長

はやみ だいき
速見 大輝さん
工学部社会システム
土木系学科 2年

よした ゆたか
吉田 豊さん
地域学部地域学科
地域創造コース 3年

柔道部は、毎週月・木・土曜日の週3回、武道場で練習をしています。武道場は他の部活も使用しているので、1日の練習時間は2時間程度です。部員28人、マネージャー5人で活動しており、柔道経験者もいれば、大学から柔道を始めた人もいます。

練習内容は体操、柔軟運動で部員同士のコミュニケーションを取り、柔道の基本的動作の受け身などを行います。その後、実践的な練習で寝技、立ち技の研究、乱取り、打ち込み、組手などをします。練習メニューは部員の意見を尊重して、部員全員で話し合っていて決めています。試合後の練習では、試合でできなかったところを重点的に見直します。



また、練習時には上下関係がないように心がけており、寝技、立ち技の研究では、お互いが気になった点を下級生からでも指摘ができる雰囲気づくりを大切にしています。この雰囲気づくりは、部員同士の仲が良いからできることです。勉強優先のため練習の参加は自由ですが、部員の多くは厳しい練習に積極的に来て、柔道を楽しんでいます。練習中は真剣に柔道に打ち込み、練習外は部員同士で談笑して、メリハリがある部活です。今は部員数も多く、雰囲気がとても良いです。大会では確実に初戦突破、簡単には負けないチームになってきています。

目標は、中国五大学生競技大会で団体戦2位以内になることです。また、今までは違う鳥取大学柔道部を見せつけたいです。

※サークル紹介記事は学生広報スタッフが担当しました。

サークル紹介 体育会柔道部



リーダーズ・ボイス

READER'S VOICE

このコーナーでは、前号(62号)の読者アンケートに寄せられた読者の皆さんの声をお伝えします。誌面作りに活かしていきますので、風紋への感想やご意見などをお寄せください。



- 【特集・鳥取大学の特色ある研究】
 - ▼鳥取砂丘の乾燥地研究について特に興味深く読ませて頂きました。(40代・女性)
 - ▼いつも楽しく読ませていただいています。特に、大学で何を学んでいるのか? 保護者としてよく分からないので、今回も特集を組んでいただけるとよく分かりました。(40代・女性)
- 【話題の研究室・工学部 信頼性・設計工学研究室】
 - ▼様々な研究室があり、たくさんの方が行われていることがわかりました。(20代・男性)
 - ▼普段の学生生活では知り得ない、自分の通う大学の知らないことがたくさんある一面を知ることができた。(20代・男性)
- 【羽ばたく卒業生】
 - ▼先輩たちが卒業後どのような進路に進んで活躍しているのかを知ることが出来て、とても参考になった。(10代・女性)
- 【こんなご意見も】
 - ▼息子は下宿をしているので、大学の情報がなかなかわかりません。この広報誌のおかげで、大学の様子がわかって、助かっています。(50代・女性)

- ▼かっこいい!(50代・女性)
- ▼いつも楽しく拝読しております。ステキな大学ですね。親としてとても嬉しく思っております。(40代・女性)
- ▼大学内外で様々な活動をされていることを知るのを楽しみで拝見しています。卒業生の活躍にも期待しています。(50代・女性)
- ▼学生の生の声をもっと載せてほしい。(50代・女性)
- ▼地元との連携のなから、鳥大ならではの特色ある取り組みの紹介にも期待します。(60代・男性)
- ▼とても読みやすく、鳥取大学を身近に感じると共に親しみが湧きました。(30代・男性)
- ▼大学の様子がよく分かり、いつも読んでいただいています。我が子は近い将来、留学に興味があるようなので、また特集などの記事載せてほしいと思います。(40代・女性)
- ▼県外出身者で鳥大で学んでいる学生にフォーカスしたコーナーなどがあると良い。(50代・男性)
- ▼鳥大の活躍にこれまで以上にワクワク感を持ちました。学生達ももっと地元に残ってくれたら、鳥取県の未来は明るいのに。とちょっとさみしい気持ちにもなりました。(50代・女性)



読者アンケートにご協力いただいた方へ
プレゼントが当たる!

今後のよりよい誌面作りのために、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で計13名様にプレゼントを進呈いたします。



A賞

記念酒
鳥大古希新
3名様

好きな商品を選んでいただけます!

B賞

創立70周年記念
オリジナル
グッズセット
10名様

※記念酒へのご応募は20歳以上の方に限らせていただきます。

アンケートのご回答はこちらから

プレゼント応募締切 | 1/31(金)

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送以外には使用いたしません。また、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



大学からのお知らせ

INFORMATION

サイエンス・アカデミーのご案内

申込不要
受講料無料

日時 毎月第2・第4土曜日 10:30~12:00
お問い合わせ 鳥取大学地域価値創造研究教育機構企画管理室 TEL 0857-31-6777

テーマ 木を見て森も見るシリーズ

会場 コミュニティ・デザイン・ラボ (鳥取大学広報センター 1階)

11/23 2019 土
テーマ 【part1】木材に秘める魅力と可能性
講師 地域価値創造研究教育機構 地域連携URA 特命助教 堤 晴彩
テーマ 【part2】大学生からみた林業のいまー林業合宿を終えてー
講師 農学部 生命環境農学科 3年 牧 尚澄

12/14 2019 土
テーマ スギと日本人
講師 智頭の山人塾 塾長 山本 福壽

テーマ 身近な心理学に触れる

会場 鳥取県立図書館 2階 大研修室 (鳥取市尚徳町101)

1/25 2020 土
テーマ 「悲しむ」という営み ~人が人であり続けるということ~
講師 医学部 保健学科 看護学専攻 准教授 安藤 泰至

LIVE (〇〇)

米子市立図書館、倉吉市立図書館、琴浦町図書館、加藤文太郎記念図書館でライブ中継による聴講ができます。

挑む、創る、未来

TOTTORI BANK 青い鳥の銀行です。鳥取銀行

Long Life 農業のよろこび、未来に。

三菱農業機械 Long Life ~人も道具も、長く使え。

風紋のバックナンバーは、こちらから
www.tottori-u.ac.jp/fumon

鳥取大学広報誌 検索

鳥取大学に関するお問い合わせ

- 入学試験 0857-31-5061
 - 研究・産官学連携 0857-31-5608
 - 公開講座・社会貢献 0857-31-6777
 - 学生・学生生活 0857-31-5053
 - 授業料納入 0857-31-5029
 - 学生就職支援 0857-31-5456
- その他はホームページ www.tottori-u.ac.jp/ask をご覧ください

編集発行 / 広報委員会 広報誌編集専門委員会

2019年11月発行

會見 忠則 (委員長・農学部) 筒井 宏樹 (地域学部) 西村 正広 (医学部) 塩崎 一郎 (工学部)
遠藤 常嘉 (農学部) 滝波 稚子 (教育支援・国際交流推進機構) 川村 優 (総務企画課)

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 TEL.0857-31-5006 FAX.0857-31-5018
[E-メール] toridai-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <https://www.tottori-u.ac.jp>

